

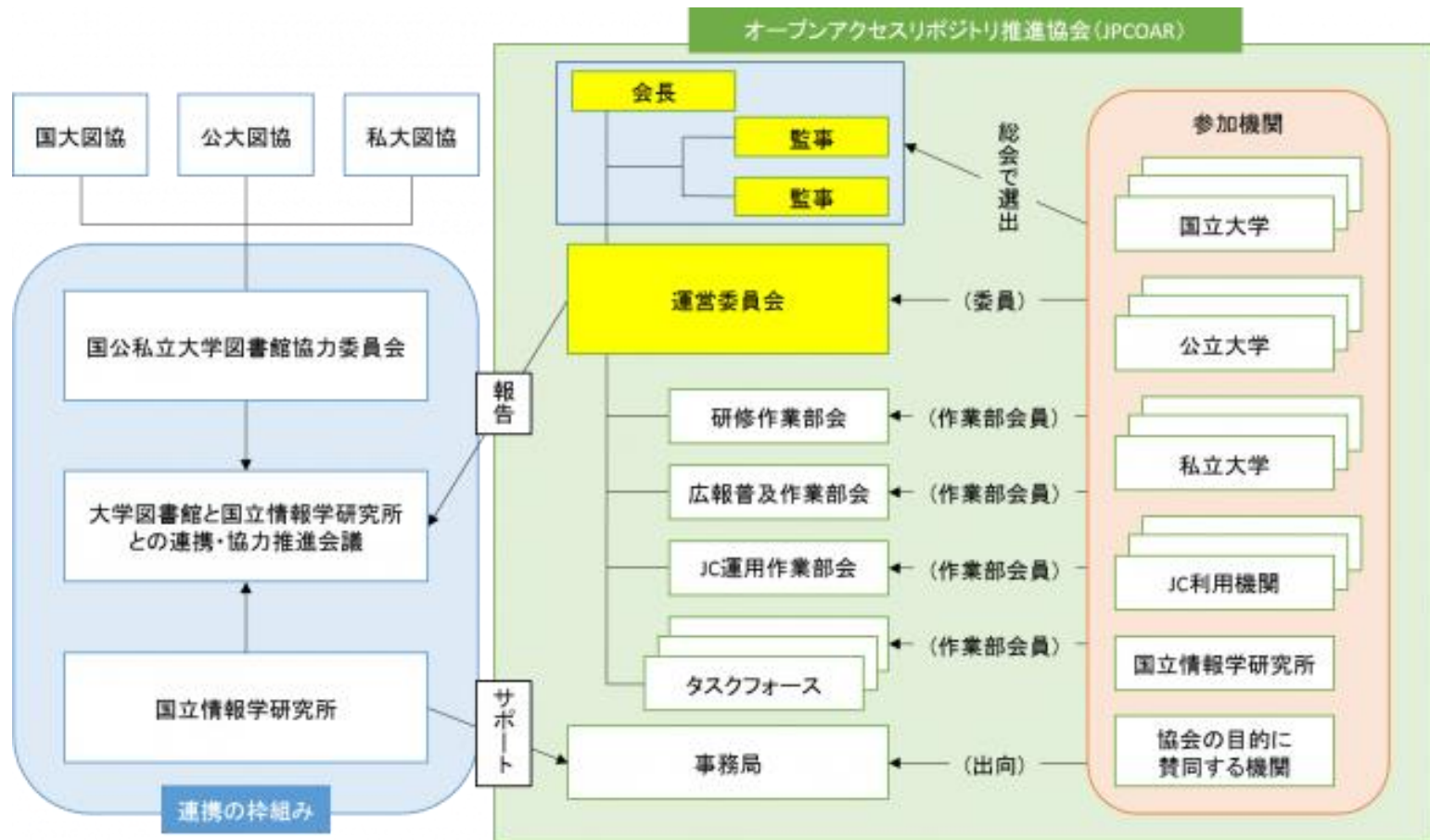
# JPCOAR研究データタスクフォースと NIIによる教材開発

JPCOAR研究データタスクフォース／鹿児島大学学術情報部  
西園由依

---

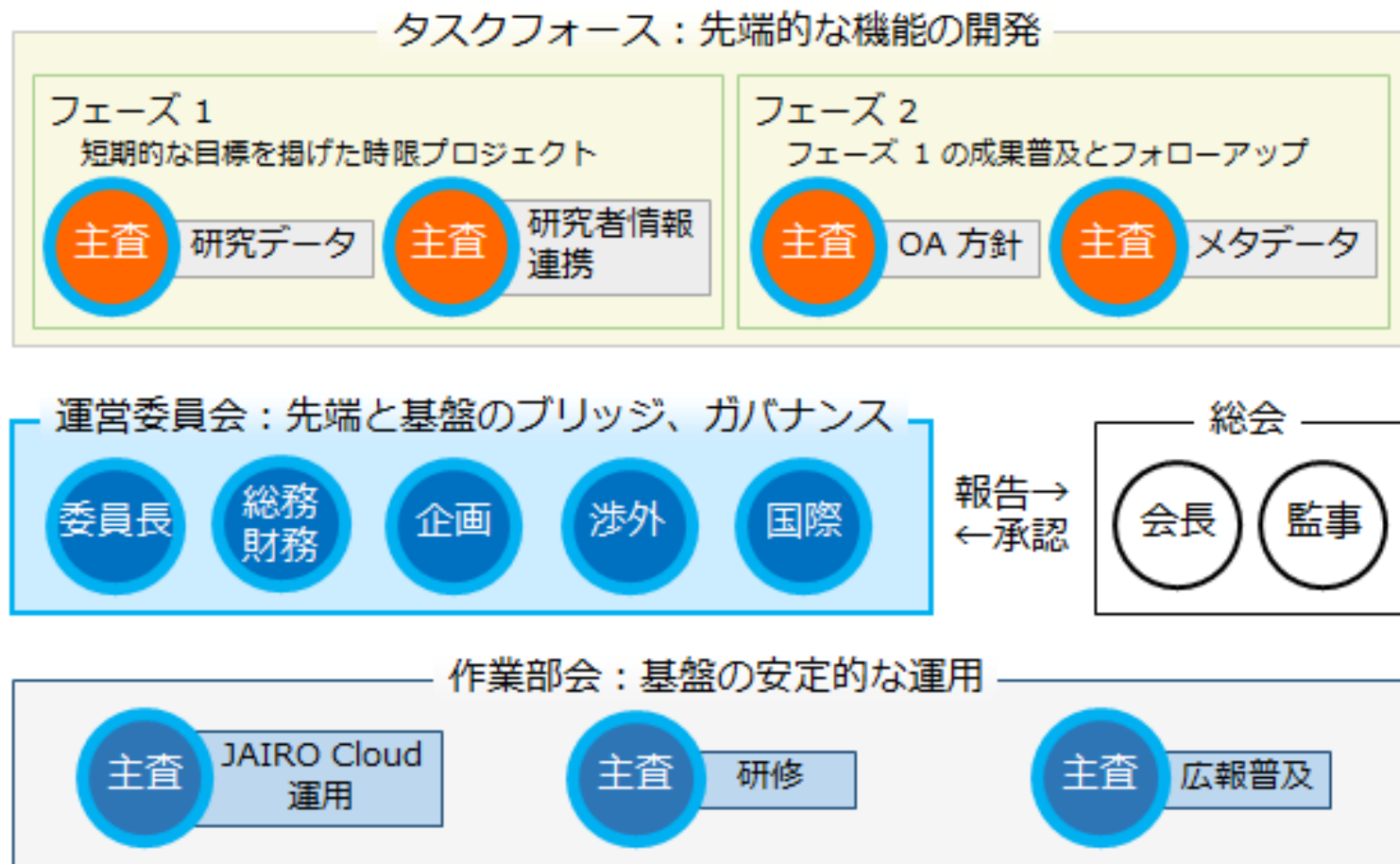
# JPCOAR研究データタスクフォース について

# オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR)



出典: [https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page\\_id=39](https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=39)

# 運営体制



注：2017年度の運営体制を表した図である。  
出典：[https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page\\_id=39](https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=39)

## メンバー（2017年度）

---

山地一禎	国立情報学研究所（主査）
尾城孝一	国立情報学研究所
青木学総	京都大学情報環境機構
天野絵里子	京都大学学術研究支援室
常川真央	千葉大学アカデミック・リンク・センター
西園由依	鹿児島大学学術情報部
松本侑子	東京大学附属図書館
南山泰之	国立極地研究所情報図書室
大園隼彦	（特別協力）

# メンバー（2018年度）

---

林正治	国立情報学研究所（主査）
山地一禎	国立情報学研究所
尾城孝一	国立情報学研究所
青木学総	京都大学情報環境機構
天野絵里子	京都大学学術研究支援室
芝翔太郎	北海道大学附属図書館
常川真央	千葉大学アカデミック・リンク・センター
西岡千文	京都大学附属図書館研究開発室
西園由依	鹿児島大学学術情報部
松野渉	筑波大学附属図書館
南山泰之	国立極地研究所情報図書室
安原通代	京都大学附属図書館
大園隼彦	（特別協力）

# 2017年度活動内容

---

## 1. RDMトレーニングツールの開発

- ▶ 教材の公開と普及
- ▶ JMOOC/gaccoでの開講
- ▶ 持続可能な教材開発体制の確立

## 2. データベースレスキュー

- ▶ データ移行の試行とワークフローの確立

## 3. データリポジトリ

- ▶ データジャーナルの創刊から得た経験や知見をデータリポジトリの機能要件として整理
- ▶ JAIRO Cloudのデータリポジトリ化に活用

# 2018年度活動計画

---

## 1. RDM 新トレーニングツールの開発

- ▶ NII オープンサイエンス基盤研究センターの事業と連携して、新トレーニングツールを開発し、その普及活動を行う。

## 2. データベースレスキューのプロジェクトの継続

- ▶ 昨年度の実績を踏まえ、レスキュー事例の蓄積を図る。

## 3. データレベル・メトリックスの調査

- ▶ データレベル・メトリックス（Data-Level Metrics: DLM）に関する調査を開始する。当面の調査対象は、“Code of practice for research data usage metrics release 1”。

## 4. RDM ポータルサイトの構築

- ▶ RDM（研究データ管理）に関する総合的な情報提供サイトを構築に向けた準備作業を行う。



---

# RDM教材の開発と普及

# RDMトレーニングツールの概要

---

## ▶ 目的

- ▶ 学習者が研究データ管理に関する基礎的な知識を習得する
- ▶ 研究データ管理サービス構築の足掛かりを得る

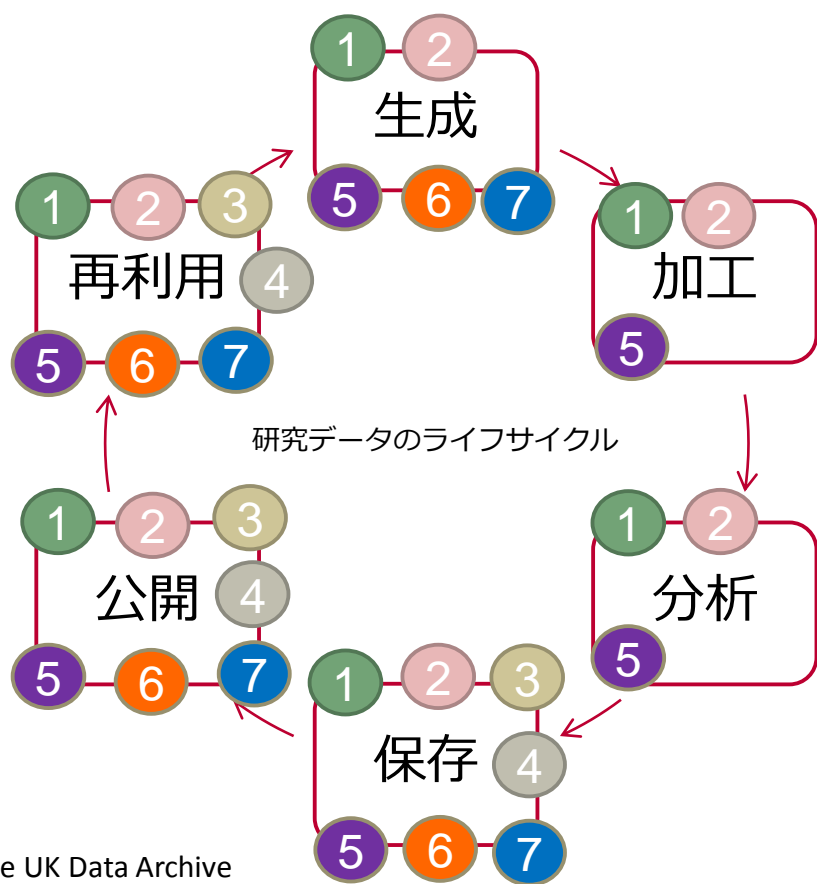
## ▶ 内容

- ▶ 全7章から構成されるeラーニング教材
- ▶ 各章は、スライドと解説で提供

## ▶ 受講対象者

- ▶ 図書館、IT部門、研究支援部門の職員（URA）等
- ▶ オープンサイエンスや研究データ管理に関心のある教職員

# 構成



- The UK Data Archive  
(<http://www.data-archive.ac.uk/create-manage/life-cycle>)
- RDM Support - basic training course for information specialists  
(<http://dx.doi.org/10.6084/m9.figshare.1285313>) より

- 1章 導入
- 2章 データ管理計画
- 3章 保存と共有
- 4章 組織化、文書化、メタデータ作成
- 5章 法・倫理的問題
- 6章 ポリシー
- 7章 研究データ管理サービスの設計

# 構成

章	内容
第1章 導入	研究データ管理の重要性が増している背景や、研究データ、研究データ管理の定義について学ぶ。
第2章 データ管理計画 (DMP)	効果的なデータ管理に欠かせないデータ管理計画に関し、作成義務化の動向や、その構成要素について学ぶ。
第3章 保存と共有	研究データの研究期間中の保管や長期保存に関する留意点について学ぶ。また、研究データの共有に関して、その意義や検討すべき点、共有方法について学ぶ。
第4章 組織化、文書化、メタデータ作成	研究データを長期的に管理・活用するために欠かせない、一定のルールに則ったデータの組織化や、データについて説明する文章やメタデータの作成について学ぶ。
第5章 法・倫理的問題	研究データをめぐる著作権や、再利用を促進するためのライセンスの仕組みについて学ぶ。あわせて、センシティブデータを取り扱う上での留意点や、研究倫理についても学ぶ。
第6章 ポリシー	国や助成団体、機関、学会等が、研究データの保存や共有を求めるポリシーを策定する例が増えており、これらの動向及びポリシー策定の要件について学ぶ。
第7章 研究データ管理サービスの検討	学習者が自機関での研究データ管理サービスを構築していくためのステップを学ぶ。

# 公開と反響

The screenshot shows the JPCOAR (Japan Open Access Repository) website. The header includes the JPCOAR logo and navigation links: 概要 (About), 組織 (Organization), 参加機関 (Members), 参加申込 (Join us), JAIRO Cloud とは? (What is "JAIRO Cloud"?), 規程類 (Rules), 会議資料 (Minutes), 事業計画 事業報告 (Project), and 各種資料 (Publication). The main content area displays the 'RDMトレーニングツール' (RDM Training Tools) page, which lists various training materials with download counts and Creative Commons licenses. The page also includes a search bar, a language selector, and a sidebar with links to various resources.

File / Name	License
RDMトレーニングツール(スクリプト入)_1章 [P] <a href="#">RDMトレーニングツール(スクリプト入)_1章</a> (166.56KB) [ 6 downloads ]	Creative Commons : 表示
RDMトレーニングツール(スクリプト入)_2章 [P] <a href="#">RDMトレーニングツール(スクリプト入)_2章</a> (803.53KB) [ 2 downloads ]	Creative Commons : 表示
RDMトレーニングツール(スクリプト入)_3章 [P] <a href="#">RDMトレーニングツール(スクリプト入)_3章</a> (118.65KB) [ 1 downloads ]	Creative Commons : 表示
RDMトレーニングツール(スクリプト入)_4章 [P] <a href="#">RDMトレーニングツール(スクリプト入)_4章</a> (454.65KB) [ 1 downloads ]	Creative Commons : 表示
RDMトレーニングツール(スクリプト入)_5章 [P] <a href="#">RDMトレーニングツール(スクリプト入)_5章</a> (578.65KB) [ 1 downloads ]	Creative Commons : 表示
RDMトレーニングツール(スクリプト入)_6章 [P] <a href="#">RDMトレーニングツール(スクリプト入)_6章</a> (100.51KB) [ 1 downloads ]	Creative Commons : 表示
RDMトレーニングツール(スクリプト入)_7章 [P] <a href="#">RDMトレーニングツール(スクリプト入)_7章</a> (378.61KB) [ 1 downloads ]	Creative Commons : 表示
RDMトレーニングツールスクリプト [W] <a href="#">RDMトレーニングツールスクリプト</a> (61.26KB) [ 3 downloads ]	Creative Commons : 表示

- ▶ 2017年6月6日  
スライドとスクリプト（説明の文章）をCC BYで公開  
<http://id.nii.ac.jp/1458/00000023/>

- ▶ 利用統計  
2017年6月～2018年5月  
サイト閲覧回数：4,848  
ダウンロード回数：3,341

# オンライン講座の開講

- ▶ オンライン講座「オープンサイエンス時代の研究データ管理」 [https://lms.gacco.org/courses/course-v1:gacco+ga088+2017\\_11/about](https://lms.gacco.org/courses/course-v1:gacco+ga088+2017_11/about)
- ▶ JMOOCの公認プラットフォーム「gacco」で開講
- ▶ 2017年11月15日から2018年1月15日まで
- ▶ 講義動画、理解度確認テスト、ディスカッション機能
- ▶ 所定の修了条件を満たすと修了証を発行

2017/08/18

オンライン講座「オープンサイエンス時代の研究データ管理」開講/JMOOCの公認プラットフォーム「gacco」で

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所（所長：喜連川 優、東京都千代田区）は、一般社団法人 日本オープンオンライン教育推進評議会（JMOOC）公認の配信プラットフォーム「gacco」で、無料オンライン講座「オープンサイエンス時代の研究データ管理」を本年11月15日から開講します。本研究所のMOOC講座開講は今回が2回目です。



(2017/08/28更新)

<https://www.nii.ac.jp/news/release/2017/0818.html>

# オンライン講座の概要

---

- ▶ 前述のRDMトレーニングツールをベースにMOOC用に再構成
- ▶ 制作：国立情報学研究所  
協力：JPCOAR 研究データTF
- ▶ 構成
  - ▶ 第1週：研究データ管理とは
  - ▶ 第2週：保存・共有・文書化
  - ▶ 第3週：メタデータ・法倫理的問題
  - ▶ 第4週：運用に向けて

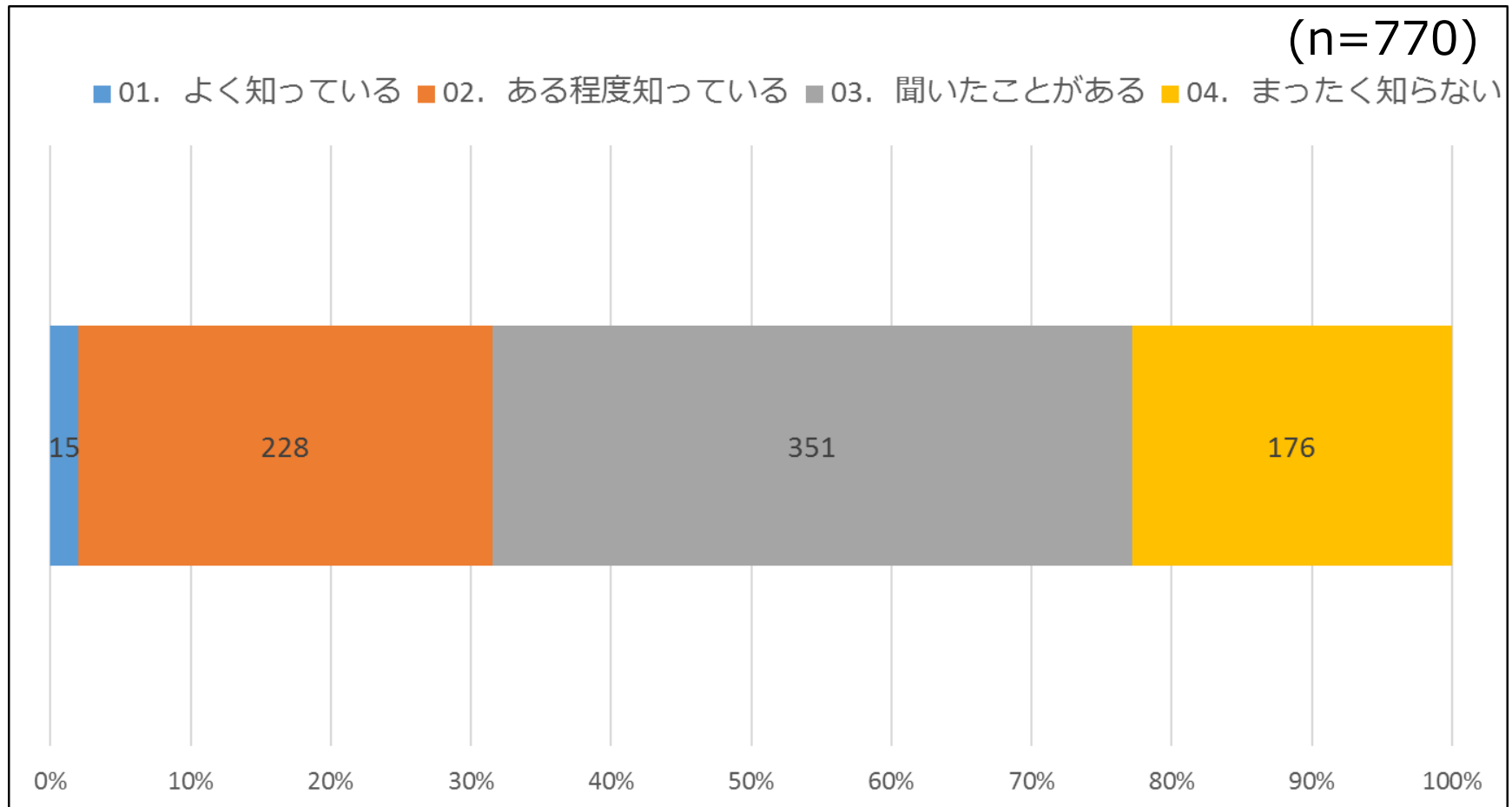
※gacco閉講後も、講義動画は以下で公開：  
<https://www.nii.ac.jp/service/jmooc/rdm/>

# オンライン講座受講者の反応

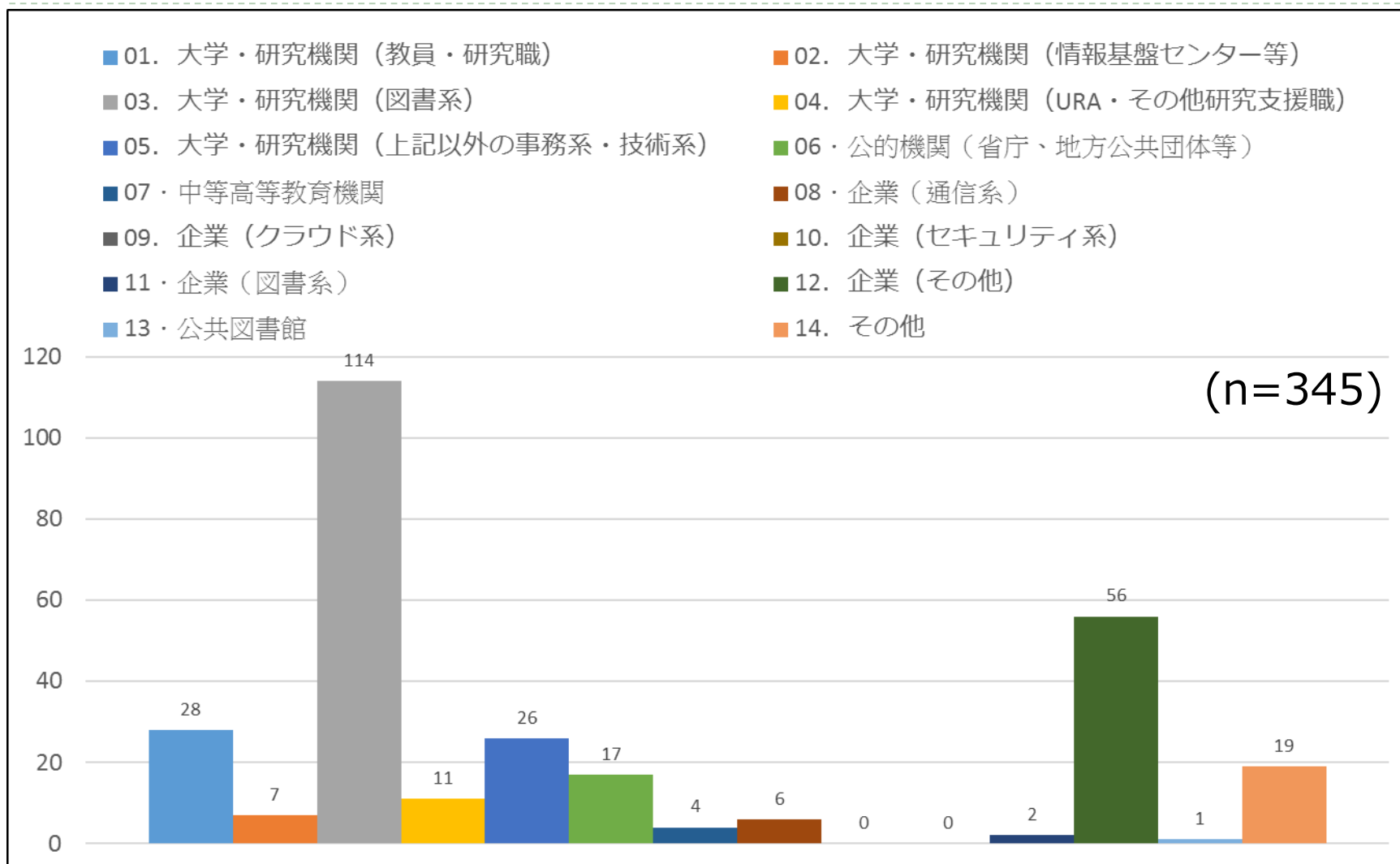
	受講者数	ディスカッションス レッド数	修了率
オープンサイエンス時代の研究データ管理	2,305	13	25%
gacco講座平均 (昨年平均)	4,145	73	15%



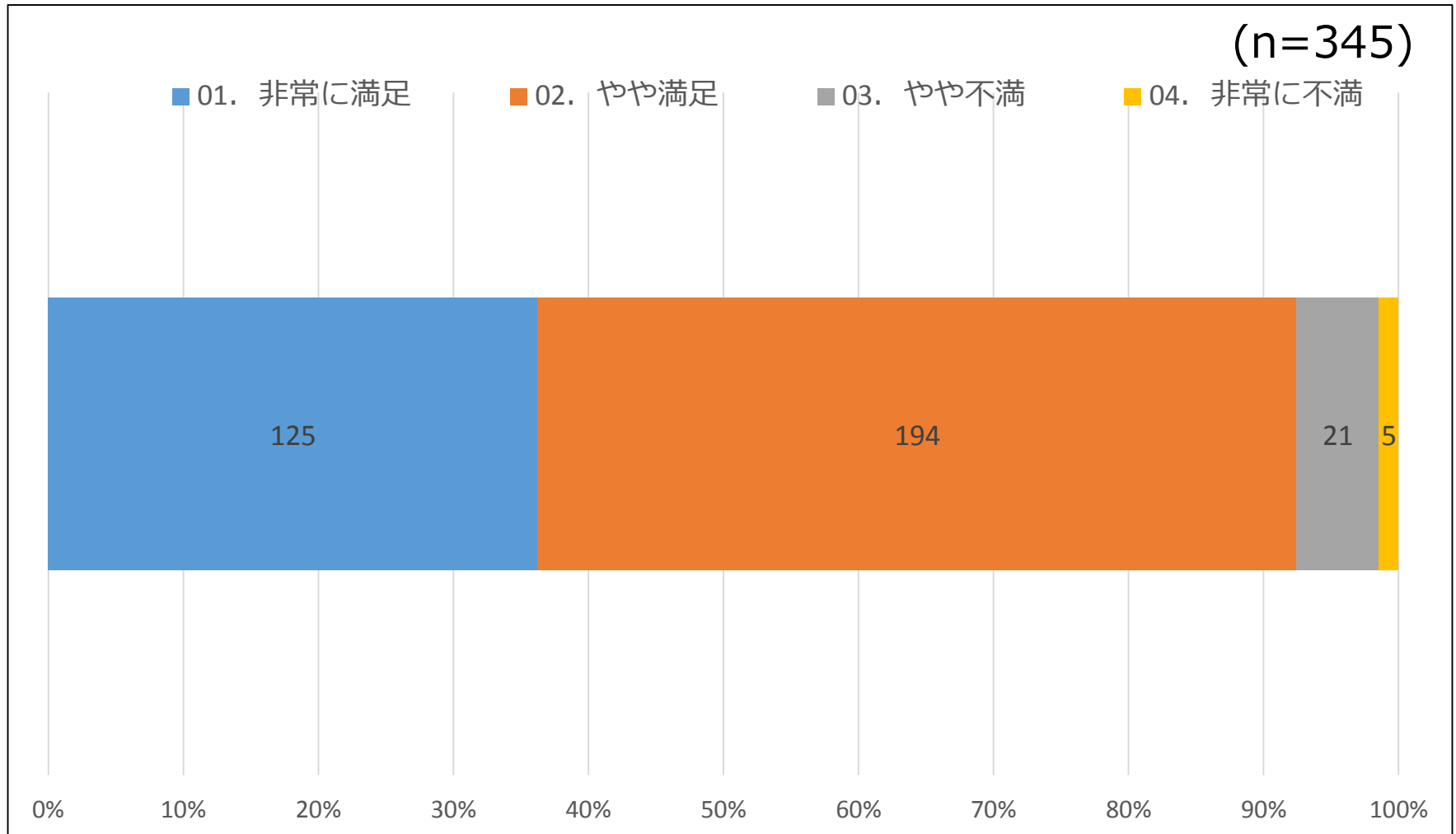
# ①開始前アンケート： 研究データ管理についてどれくらい知っていますか？



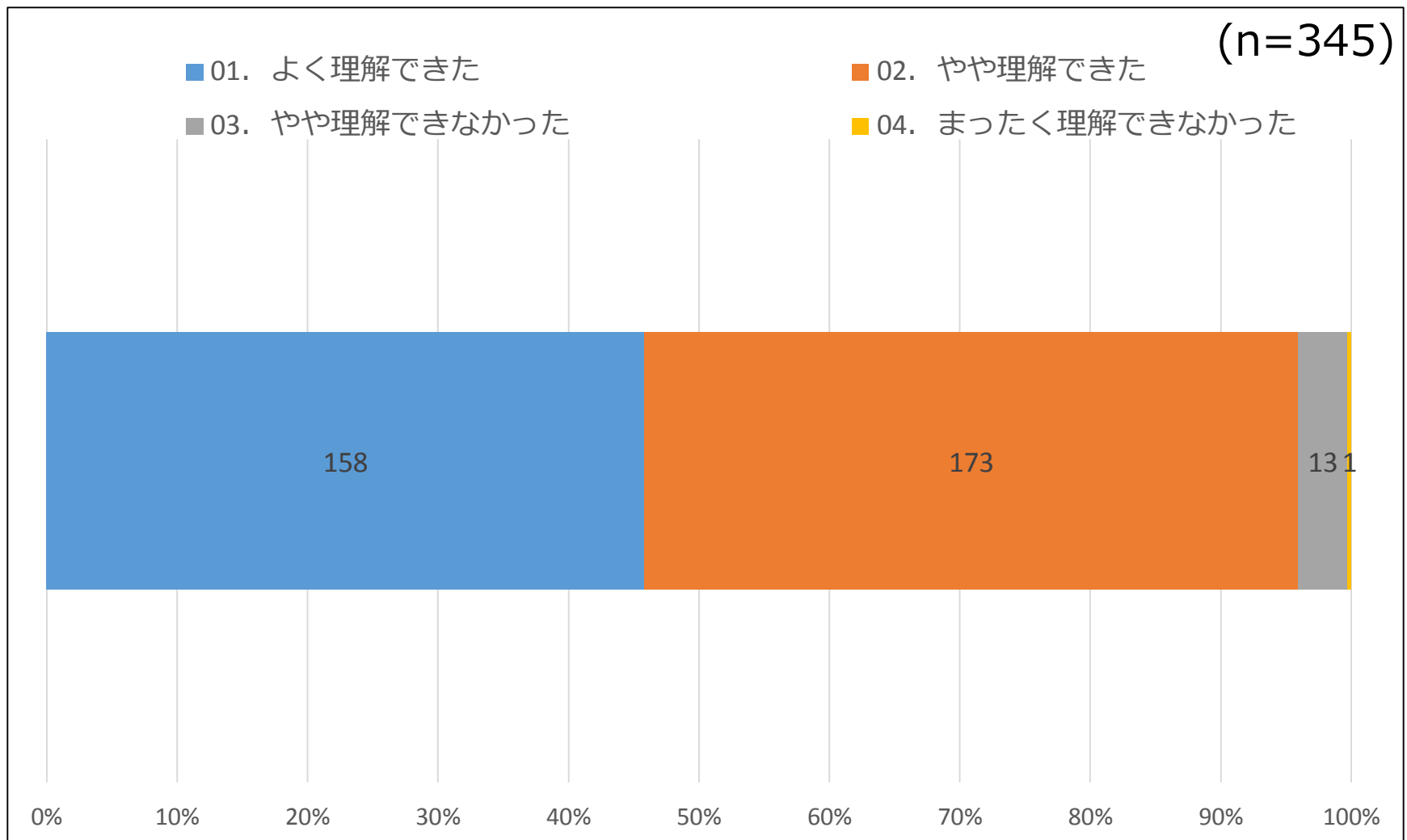
## ②受講後アンケート：勤務先



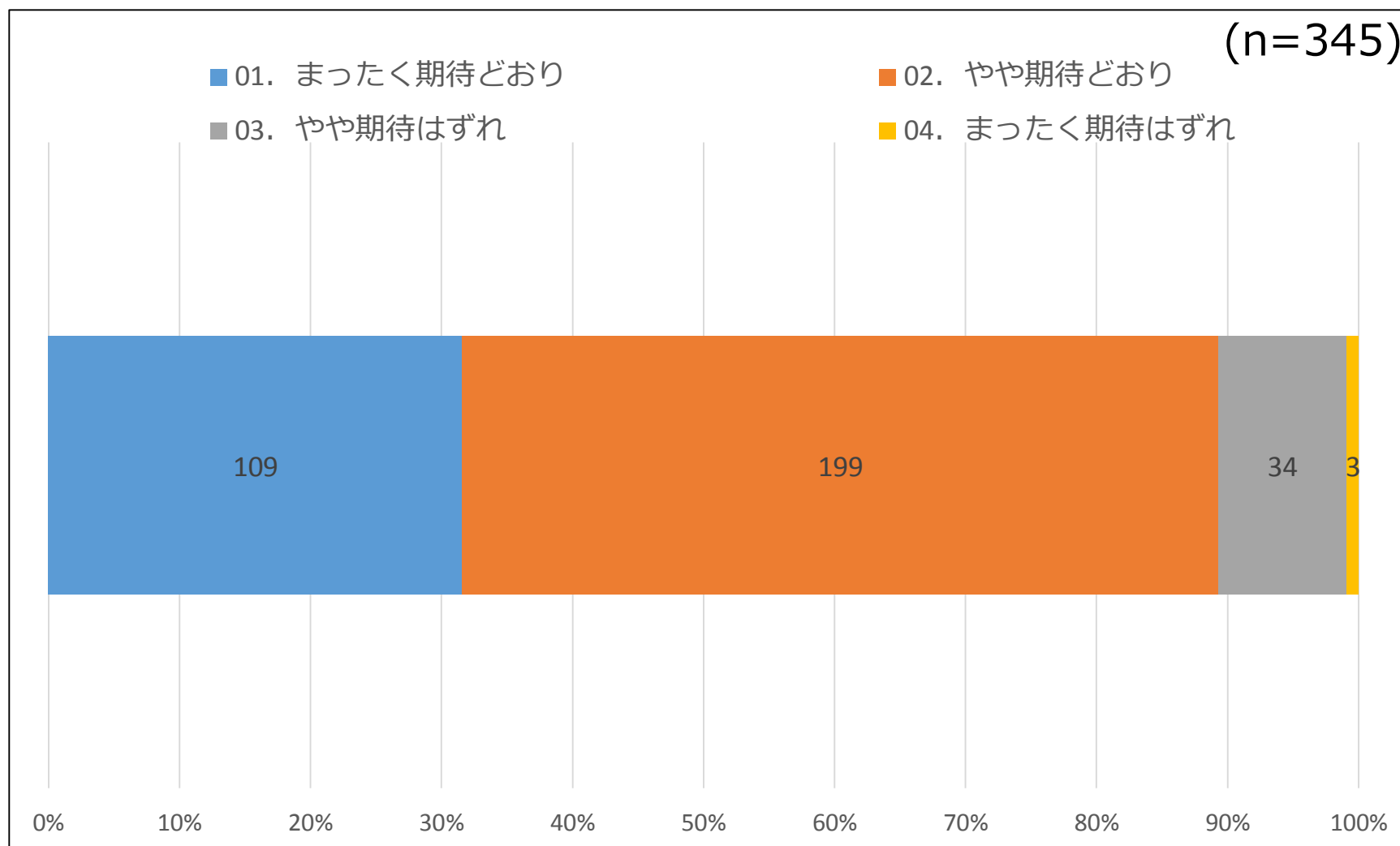
## ②受講後アンケート： この講座を全体的にどう思いますか



## ②受講後アンケート： 本講座の内容はどれくらい理解できましたか



## ②受講後アンケート：期待どおりでしたか

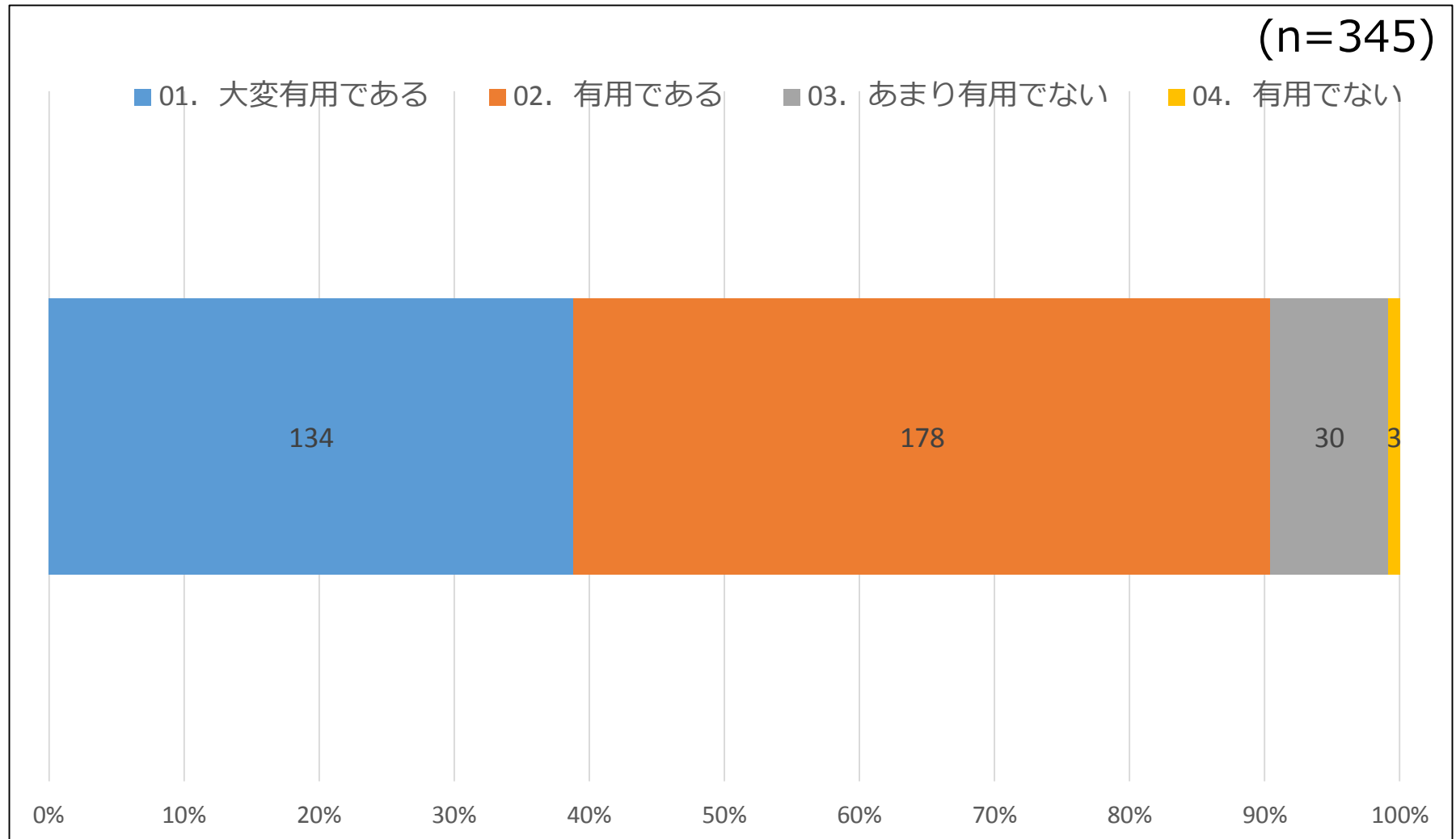


## ②受講後アンケート： 期待どおりでしたか(理由)

---

- ▶ まったく期待どおり / やや期待どおり
  - ▶ 研究データ管理の概要について系統立てて理解することができた
  - ▶ 研究データ管理という言葉が先行していたので、この講習を受けて「中身」を具体的に知ることができた
  - ▶ 今後の課題が明確になった
  - ▶ 思ったよりずっと内容が濃く、難しかった。国内外の状況もたくさん取り入れられており、大変参考になった
- ▶ やや期待はずれ / まったく期待はずれ
  - ▶ 内容はよいが、講義を講師ではなくナレーターが読み上げるのにたいへんがっかりした
  - ▶ 動画を全く見なくても、既存の知識と配布資料・参考文献だけで理解度クイズがクリアできてしまい、その点が期待はずれ

## ②受講後アンケート： 本講座の内容は、あなた自身にとって有用でしたか



## ②受講後アンケート： あなた自身にとって有用でしたか(理由)

---

### ▶ 大変有用である / 有用である

- ▶ 研究データ管理について、このように情報がまとまっていることはなかなかなかった
- ▶ ほぼ知識ゼロの分野で業務経験も全くないため、一通りの知識をこの研修で得たことは有意義であった
- ▶ 研究支援系や教員と話す時に必要な知識であると感じた
- ▶ 図書系というより図書系が他部署と連携するときに必要な知識と感じた

### ▶ あまり有用でない / 有用でない

- ▶ 研究及びそれに関する事務に関係していない者にとって、難解で利活用できない講座だった
- ▶ 大学図書館が、オープンサイエンス時代という論文のみならずデータの保存、共有という段階に入ってきているところまでは、認識できたが、高レベルでの話という感じがする
- ▶ 本学の学術情報の現状では、学園内の理解を得るところまではまだまだ遠い道のりだと思った。無知の知を感じる



---

## 新教材の開発

# JPCOAR研究データTF 2018年度活動計画

## 1. RDM 新トレーニングツールの開発

NII オープンサイエンス基盤研究センターの事業と連携して、新トレーニングツールを開発し、その普及活動を行う。

国立情報学研究所  
オープンサイエンス基盤研究センター  
Research Center for Open Science and Data Platform

Google カスタム検索

日本語 English

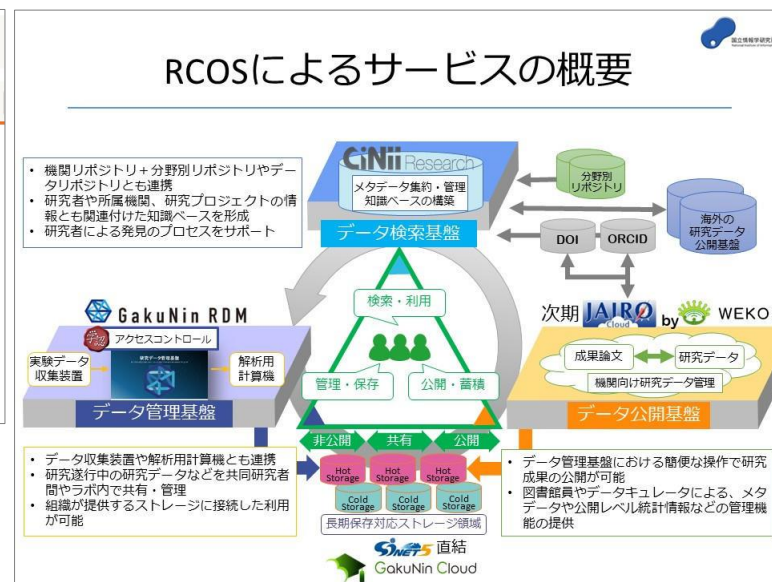
TOP RCOSについて サービス オープンサイエンスとは 各種資料 RCOS日記

### Advancing Open Science with Research Data Platforms

NIIオープンサイエンス基盤研究センター (RCOS) は、世界的なオープンサイエンスの気運を受け、そのインフラとなる学術基盤を開発・運営するために、国立情報学研究所 (NII) 内に設置されました。学術論文と研究データがアカデミアおよび社会で広く共有され、幅広い研究活動がオープンに行われることで、研究活動の加速化や、社会と緊密な連携の上に成り立つ問題解決が進み、学術活動が新しい次元 (= オープンサイエンス) に移行することが期待されています。



<https://rcos.nii.ac.jp/>



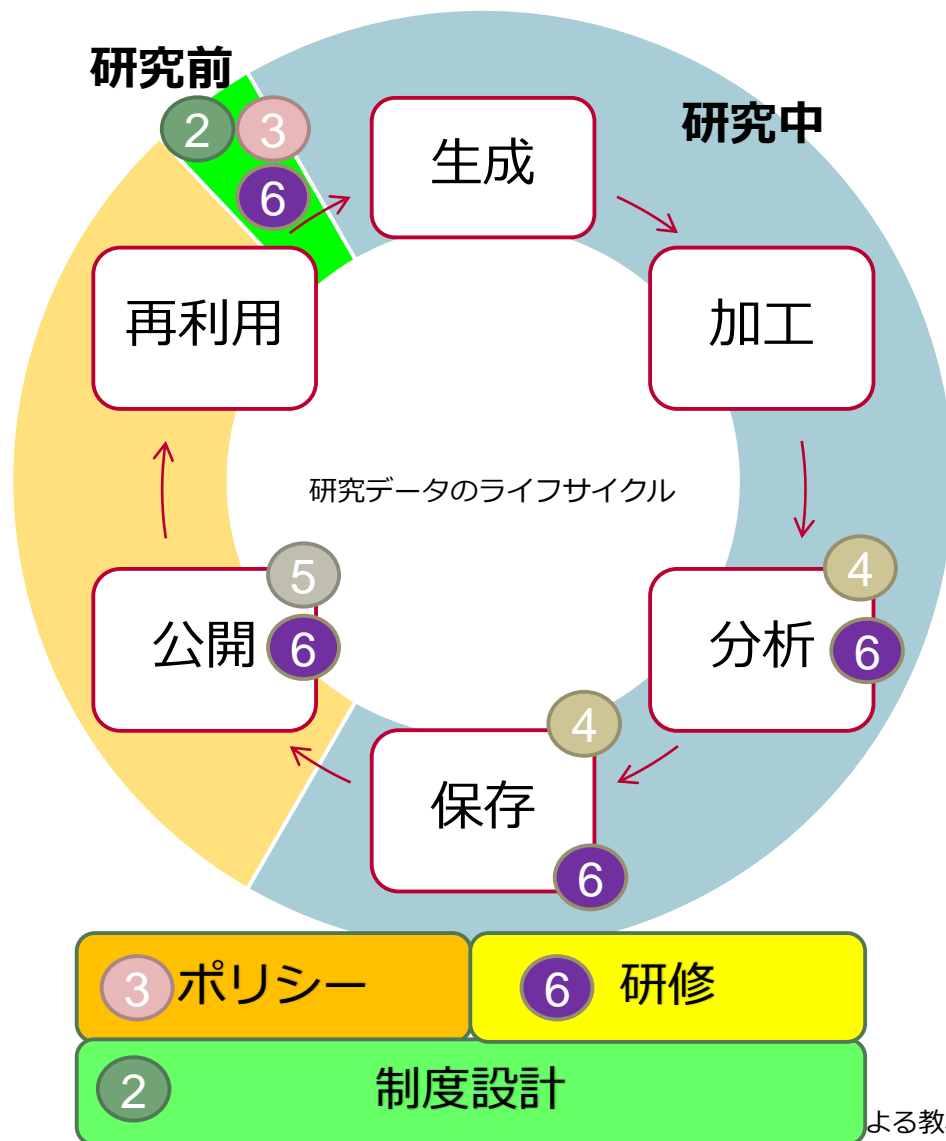
<https://rcos.nii.ac.jp/service/>

# 「研究データ管理サービスの設計と実践（仮）」

---

- ▶ 研究支援者（図書館員、URA、ICT部署のスタッフ等）のための教材
- ▶ 研究プロセス（研究前、研究中、研究後）に沿って、サービスの設計と実践について学ぶ
- ▶ NIIが開発中の新オンライン学習プラットフォームから今年度中に公開予定

# 構成



## 1章 序論

- 2 2章 サービス設計
- 3 3章 研究前の支援
- 4 4章 研究中の支援
- 5 5章 研究後の支援
- 6 6章 日常的な支援

- The UK Data Archive  
( <http://www.data-archive.ac.uk/create-manage/life-cycle> )
- RDM Support - basic training course for information specialists  
( <http://dx.doi.org/10.6084/m9.figshare.1285313> ) を元に加工

# 構成

章	内容
第1章：序論	研究データ管理に関する基礎的な知識を学ぶ <ul style="list-style-type: none"><li>研究データ管理とは何か</li><li>研究データ管理の重要性が増している背景</li><li>研究データ管理サービスとは何か</li></ul>
第2章：サービス設計	自機関の実情に合ったサービスを設計するために必要なことを学ぶ <ul style="list-style-type: none"><li>組織づくりや機関としての戦略やポリシーの立案</li><li>Data Asset Framework（データ資産フレームワーク）の活用法</li></ul>
第3章：研究前の支援	研究者が研究を開始する前段階で、どのような支援が求められているかについて学ぶ <ul style="list-style-type: none"><li>研究者が遵守すべきポリシーとは何か</li><li>研究資金配分機関等が求めるDMP（データ管理計画）の作成支援</li></ul>
第4章：研究中の支援	研究者が研究を実施している最中に求められる支援について学ぶ <ul style="list-style-type: none"><li>研究データの種類とセキュリティポリシーの関係</li><li>データの保存と機関の役割</li><li>利用可能なデータの発見方法</li><li>データの分析や可視化の支援方法</li><li>論文発表の際に必要なとされるデータの取扱い</li><li>データ管理計画の見直し</li></ul>
第5章：研究後の支援	研究終了後に、得られたデータを公開することについて学ぶ <ul style="list-style-type: none"><li>データの公開前に確認すべきこと</li><li>データの公開場所としてのデータリポジトリの選定</li><li>公開するデータに付与すべきメタデータ、識別子、ライセンスなど</li></ul>
第6章：日常的な支援	日常的な研究データ管理サービスについて学ぶ <ul style="list-style-type: none"><li>研修の実施方法</li><li>ポータルサイトの構築と提供すべき情報</li><li>窓口業務の実施体制</li><li>広報のための資料作成やアドボカシー活動の展開方法</li></ul>

# 教材の活用方法

---

- ▶ 自己研修
  - ▶ 基礎的な知識の習得
- ▶ 大学図書館におけるリテラシー教育での活用
  - ▶ 大学院生や若手研究者向けに
- ▶ 大学や企業における研修での活用
  - ▶ 研究者やURA、技術スタッフ等、組織内のステイクホルダー間の意識共有に
- ▶ フィードバックによる教材の進化（深化）
  - ▶ 活用事例における知見を新教材開発へ